

# Sunshine

## English Course

令和7年度用  
中学校英語教科書

検討の観点  
と  
内容の特色



新しい教科書に  
関する各種情報は  
ウェブページから  
ご覧いただけます。



【略号】

PR = PROGRAM PU = Power-Up OP = Our Project  
R = Reading (2・3年生) FR = Further Reading (3年生)

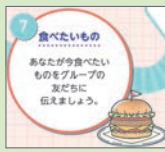
# 1. 教育基本法との関連

観点	特色	該当ページ例
1 幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の題材を通して、身近な場面からは社会生活において活用できる<b>知識と教養</b>を、社会問題や異文化を取り扱った話題からは視野を広げて、<b>他者にも心配りのできる態度</b>を育成できる。</li> <li>・登場人物を取り巻くストーリーを読んで、<b>ともに成長</b>していくことで、友情や周囲への<b>思いやりの気持ち</b>などを育めるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年PR5 (pp.61-69) / 3年PR5 (pp.65-74)、FR2 (pp.118-120)</li> <li>・2年PR1 (pp.7-16)、PR5 Action (p.73) / 3年R1 (pp.48-53)、FR1 (pp.115-117)</li> </ul>
2 能力の伸長、自主・自律の精神、職業との関連を重視	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスや社会において、個人の得意分野を生かしたり<b>特性を尊重</b>したりしながら、<b>共存しようとする態度</b>を育める題材を取り上げている。</li> <li>・身近な人の職業について話したり、職場体験において生徒自身が勤労を経験したりする題材を通して、さまざまな<b>労働環境への興味</b>を培い、将来への勤労意欲を育める工夫がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年PR3 (pp.37-43) / 3年PR3 (pp.29-38)、PR4 (pp.55-64)</li> <li>・1年PR4 (pp.51-59) / 2年PR5 (pp.65-74)</li> </ul>
3 正義と責任、自他の敬愛と協力、男女の平等、公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでのプレゼンテーションやポスター制作・発表など対話的な学習活動を通して、<b>相手の意見や立場を尊重し、協力していこうとする態度</b>を育むことができる。</li> <li>・登場人物はもちろん、イラストや写真においても<b>男女の偏りがない</b>よう配慮されている。</li> <li>・おすすめスポットを紹介するなどの活動を通して、<b>地域社会の一員である意識</b>を高め、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年R2 (pp.106-111)、FR3 (pp.121-125)</li> <li>・全体</li> <li>・2年OP 4 (pp.87-91)</li> </ul>
4 生命や自然の尊重、環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境や動物保護に関する題材を通して、生徒が問題意識を持って<b>生命の大切さや環境保護に寄与する態度</b>を養えるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年PR6 (pp.75-84) / 3年R1 (pp.48-53)</li> </ul>
5 伝統や文化の尊重、我が国と郷土を愛し、他国を尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の食文化や歴史的建造物について読んだり発信したりする活動を通して、<b>日本や自分の郷土への知見を深め、愛する態度</b>を養うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年PR4 (pp.51-59) / 2年PR8 Action (p.115) / 3年PR1 (pp.7-16)</li> </ul>
6 国際社会の平和と発展に寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他国の生活や文化を尊重しながらも、自国文化のよい点をもって<b>国際社会の平和と発展に貢献</b>しようとする意欲を養える題材を取り上げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年PR2 (pp.19-28)、R2 (pp.92-95) / 3年FR3 (pp.121-125)、Coffee Break 3 (p.126)</li> </ul>


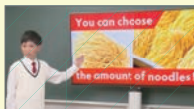
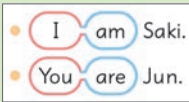
# 2. 学習指導要領への対応

観点	特色	該当ページ例
学習指導要領の趣旨を踏まえ、教科の目標を達成できる内容となっているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領(中学校外国語科)を踏まえて、全学年を通して1単元の中に「聞く」「読む」「話す」「書く」活動が配置されており、5領域について<b>総合的な指導</b>ができるよう工夫・配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体</li> </ul>
基礎的な知識・技能を習得できる工夫がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の特に前半(Scenes)において、新出表現に関する知識・技能を習得・活用できる構成になっている。理解を深めるための活動は、達成感が得られるよう、大半の生徒が正答できる難易度に設定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元 Scenes</li> </ul>
思考力・判断力・表現力等の育成が図れる構成になっているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文読了後にその内容を再話する活動(Review &amp; Retell)では、<b>本文内容を整理して自分のことばで話す</b>ことが求められる。また、単元末のActionでは、<b>題材に関連したテーマで行う自己表現活動</b>が設けられており、いずれも思考力・判断力・表現力が無理なく育成できるよう工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元 Review &amp; Retell</li> <li>・各単元 Action</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度を養う配慮がされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とびらで学習の見通しを立てたり、各コーナーでの自己評価を重ねたりすることを通して、<b>自分の学習を調整しやすい構成</b>になっている。</li> <li>・Our Projectでは、発表活動後に<b>自分の発表の振り返りができる</b>よう設定されているため、<b>主体的に次の活動に向かう態度</b>を養うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元とびら</li> <li>・各学年 Our Project</li> </ul>
カリキュラムマネジメントに配慮した構成になっているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との<b>横断的な指導がしやすい</b>題材を多く取り上げている。日本食などの身近なテーマから、社会問題、平和や国際貢献に関する話題まで、<b>社会・技術・家庭・道徳などそのテーマは多岐にわたっている</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年PR 4(家) / PR 9(社)</li> <li>・2年PR 6(技)</li> <li>・3年PR 6(社) / FR 3(道)</li> </ul>
4技能5領域の総合的な育成を図りつつ、コミュニケーションを図る素質・能力を育成できる内容・構成になっているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常課においては、<b>4技能5領域の言語活動をバランスよく配置し</b>、5つのアイコンで領域をわかりやすく示している。また、自己表現活動においては、<b>複数の技能・領域を組み合わせて行うもの</b>が配置されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">      </div>
知識・技能と思考力・判断力・表現力の育成についてバランスよく配慮されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常課の前半にあるScenesに出てくる<b>新出表現の習得と活用を経て</b>、身近な話題や社会問題について書かれた本文を読み、それについて思考・表現することで<b>思考力・判断力・表現力を育成できる構成</b>になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体</li> </ul>



観点	特色	該当ページ例
小中連携における配慮がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の通常課に入る前の Get Ready 1～6で、<b>小学校英語を振り返る活動</b>を設けている。ここではインタビューゲームや英語すごろくを通して、これまでの英語学習の<b>習熟度を無理なく見取る</b>ことができる構成になっている。</li> <li>小学校での既習語を606語に設定し、<b>出現ページの脚注に表示するとともに、巻末の単語リストでは🍀をつけ</b>、効果的な指導が行えるよう工夫されている。</li> <li>通常課の Scenes では目的・場面・状況が明確なマンガ形式で新出表現が導入されているので、場面シラバス中心の小学校英語と同じプロセスで学習できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年 Get Ready (pp.7-20)</li> <li>Get Ready 2 (p.11) ▶</li> <li>巻末資料「単語と熟語」(⇒内容解説資料 pp.24-25)</li> </ul> 
中高連携における配慮がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学年を通じて<b>段階的に本文語数を増やし</b>ており、2・3年生では通常課に加えて、<b>Reading 課</b>も設置されている。さらに、3年生には Further Reading 1～3で<b>400-600語程度の多読・速読用読み物</b>も設けられており、高校入試に十分対応が可能である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2～3年 R / 3年 FR1～3</li> </ul>
英語の授業を英語で行う配慮がされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生 PROGRAM 4以降、本文の下に内容把握のための英語の問いが設けられているので、<b>英問英答</b>の活動ができる。これにより教室で英語でのやり取りが活発に行われ、生徒が自発的に発話できる機会が増えるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 Part 1～3</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>Q&amp;A</p> <p>1 Where is Miki going to move?</p> <p>2 What is Mao planning for Miki?</p> </div>
生徒が繰り返し英語に触れる工夫はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元脚注の Small Talk では、小学校での学習内容を含む既習表現を使う活動が設定されており、授業の帯活動として生徒が繰り返し英語を使いながら定着を高められる構成となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元脚注 Small Talk</li> </ul>

### 3. 内容

観点	特色	該当ページ例
音声の扱いは適切に なされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生 Get Ready 5「アルファベットを確認しよう」では、<b>音と文字の関係</b>について、小学校での既習語彙を用いて示されている。</li> <li>全学年を通して、ページ下でそのページに出てくる単語についての発音、強勢、イントネーション、区切りなどを扱っている。また、「<b>発音クリニック</b>」でも文の区切れや強勢などが系統的にまとめている。</li> <li>各単元の Scenes と本文、各所でてくる新出表現については、紙面右上に付した <b>QRコードから英語音声</b>を聞けるので、<b>自宅での学習にも活用</b>できる。QRコードからは音声資料だけでなく、<b>アニメや実写の動画</b>にもアクセスでき、生徒の自学自習を一層促すものである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年 Get Ready 5 (pp.16-17)</li> <li>Get Ready 5 (p.16)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年発音クリニック(1年 p.43 など)</li> <li>▼2年 Our Project 4 発表動画</li> </ul> 
中学校で学ぶべき 1,600～1,800語を無理なく学べるよう工夫されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間で学ぶ新出語には1,644語が設定されている。そのうち、重要度に応じて、<b>重要語を太字</b>で、それ以外の語や固有名詞などを細字で表記し、生徒にとって<b>メリハリある効率的な学習</b>ができる構成になっている。</li> <li>小学校での既習語が出てきた際にはページ脚注の <b>小学校で学んだ単語</b> という欄で取り上げられており、取りこぼしを出さない工夫がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体(2年 p.12 など)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>New Words</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● care</li> <li>○ local</li> </ul> <p>重要語は●つきの太字で 提示▶</p> </div>
文・文構造・文法事項の扱いは適切か	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文は単文から重文・複文へ、具体的な内容から抽象的な内容へと配列されており、生徒の成長に対して適切な構成である。</li> <li>各学年で学習する文構造・文法事項は1年生で22項目、2年生で24項目、3年生で21項目であり、各単元はじめの Scenes でマンガ形式で導入される。<b>目的・場面・状況が明確</b>なため、視覚的に新出表現を理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体</li> </ul>
日本語との違いに気づかせる工夫はなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校英語の復習ページである Get Ready 6では、平易な3～4語の文で<b>日本語と英語の語順の違い</b>に注目させるタスクが設置されている。</li> <li>各単元末の「英語早わかり」ページでは、文要素を色付けして示すことにより、<b>語順や修飾関係における日本語との相違</b>に注目できるよう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年 Get Ready 6 (p.18)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 英語早わかり (1年 p.27 など)</li> </ul> 

観点	特色	該当ページ例
各活動や補充資料にはどのような工夫がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>Scenes で新出現を導入した直後の活動 (Listen, Speak &amp; Write) は平易な内容にとどめ、単元末の Action では本文題材に関連したテーマでの自己表現活動が設定されている。1 単元を通して<b>基礎固めから仕上げに向けて無理なく力をつけられる配置</b>となっている。</li> <li>本文傍注に題材に関する補足情報が適宜付されており、より理解が深まるよう配慮されている。</li> <li>Coffee Break では、本文題材に関連した話題や英語特有の表現が取り上げられており、生徒の好奇心に応える配慮が十分なされていると言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 Listen, Speak &amp; Write, Action</li> <li>1 年 PR5 (pp.61-69)</li> <li>1～3 年 Coffee Break</li> </ul>
情報を整理しながら考えなどを形成し、英語を表現したり、伝え合ったりするための工夫がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港でフライト遅延に関するアナウンスから必要な情報を聞き取る、校外活動に関するメモを見ながら持ち物を考える、ポスターの情報をもとに自分の予定を立てる、などの活動を通して、目的・場面・状況に応じて必要な情報を判断し、自分の考えを表現する力を養うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 年 PU2 (p.50)、PU5 (p.117) / 3 年 PU2 (p.75)</li> </ul>
「聞くこと」の活動は十分に 取り扱われているか   Listen	<ul style="list-style-type: none"> <li>Scenes では、新出現に慣れ親しむ活動として、<b>Listen</b> が設けられている。</li> <li><b>Tuning in</b> に、その単元の話題にまつわるキーワードや文化情報などについてのリスニングの活動が用意されており、<b>音声面から学習内容の導入</b>が行えるよう工夫されているとともに、学習の見通しを立てることができる。</li> <li>リスニングを含む <b>Power-Up</b> では、聞き取る内容を焦点化して同じ音声を複数回聞かせる活動を意図的に設け、概要の把握から詳細な情報まで<b>段階を踏みながら正確に聞き取る</b>ことができるように配慮されている。</li> <li>内容の把握だけでなく<b>書き取り形式の問い</b>も用意されている。内容は「インタビュー」(1 年)や「天気予報」「空港アナウンス」(2 年)、「ラジオ」(3 年)など、<b>自然で聞く必然性のある場面での活動</b>が設定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 Listen (1 年 p.63 など)</li> <li>各単元 Tuning in (1 年 p.64 など)</li> <li>2 年 PU1 (p.29)</li> <li>1 年 PU5 (p.122) / 2 年 PU1 (p.29)、PU5 (p.117) / 3 年 PU3 (p.94)</li> </ul> 
「話すこと(発表)」の活動は十分に 取り扱われているか   Speak	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Our Project</b> では単に原稿を読み上げるだけの発表でなく、自分の手元にあるメモや資料をもとに即興で発表する活動が取り入れられている。</li> <li>Scenes の右ページに Listen と併せて <b>Speak &amp; Write</b> が設けられており、話した (Speak) 内容を書く (Write) ことで、<b>新出現を使いながら理解</b>できるように工夫されている。</li> <li>単元末の <b>Review &amp; Retell</b> では、与えられたキーワードなどを参考に、単元本文の内容を自分のことばで再話するという活動を通して、<b>即興力を養う工夫</b>がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 年 OP3 (pp.135-139) など</li> <li>各単元 Speak &amp; Write (2 年 p.9 など)</li> <li>各単元 Review &amp; Retell (2 年 p.14 など)</li> <li>▼ 2 年 PR3 Review &amp; Retell (p.38)</li> </ul> 
「話すこと(やり取り)」の活動は十分に 取り扱われているか   やり取り	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Our Project</b> ではディスカッションしたり、発表後に即興での Q&amp;A を行ったりすることで即興力を養う工夫がなされている。</li> <li>1 単元あたり 2～3 箇所にある <b>Small Talk</b> では、これまでの既習表現や語彙を使っのやり取りを毎時間行えるので、<b>確かな即興力の養成</b>につながる。</li> <li>単元末の <b>Action</b> でも、その単元で学んだ話題をもとに友だちとやり取りできる場面が多く設定されている。理由とともに自分の意見を言うことまで促す指示があるため、意味のないやり取りにならず、<b>場面・状況に応じた即興力</b>を育成できる構成である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 年 OP8 (pp.89-93) など</li> <li>各単元 Small Talk (1 年 p.22 など) ▼</li> <li></li> <li>各単元 Action (1 年 p.26 など)</li> </ul>
「読むこと」の活動は十分に 取り扱われているか   Read	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の各パートに配置されている <b>Q&amp;A</b> には、事実発問のほか推論発問も設けられており、<b>確かな読解力</b>が育成できる。</li> <li>本文わきには音読回数に応じてめりつづす「音読マーク」が設けられており、自学自習を促すとともに、学習の記録にも役立てられるよう工夫されている。</li> <li><b>Reading</b> の課が 2 年には 3 箇所、3 年には 2 箇所配置されており、読んだ内容について自分の感想や意見を述べる活動へと発展させている。</li> <li>3 年の巻末には、多読用・速読用教材として <b>Further Reading</b> が 3 箇所設けられており、長文化する高校入試に分量・内容ともに十分対応できるものとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 Q&amp;A (1 年 p.66 など)</li> <li>各単元 Part 1~3 (3 年 pp. 11-13 など)</li> <li>▶ 音読マーク </li> <li>2～3 年 R</li> <li>3 年 FR1～3</li> </ul>
「書くこと」の活動は十分に 取り扱われているか   Write	<ul style="list-style-type: none"> <li>Scenes で新出現に慣れ親しむ活動として、Listen と併せて <b>Speak &amp; Write</b> という活動が設けられている。話した (Speak) 内容を書く (Write) ことで、<b>新出現を正確に理解・表出</b>させることができる。</li> <li>Our Project では、モデル文の構成の分析、既習表現の確認、構想を練るためにマッピングを使った原稿作成過程を取り入れ、小さなステップを積み重ねながら文と文のつながりに注意して文章が書けるように配慮されている。</li> <li><b>Power-Up</b> では、メールやホームページ作成など<b>英語を「書く」必然性のある活動</b>を設定している。</li> <li>単元末の <b>Action</b> や、各学年に配された <b>Step</b> でも「話した／聞いた内容を書く」という活動が設定されており、「<b>書く</b>」活動を通して、<b>英語の正確性を上げることができる</b>よう配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 Speak &amp; Write (2 年 p.9 など)</li> <li>各学年 OP (2 年 pp.41-45 など)</li> <li>1 年 PU6 (p.140) / 2 年 PU4 (p.85) / 3 年 PU4 (p.105)</li> </ul> 

観点	特色	該当ページ例
言語の使用場面・言語の動きは適切に扱われているか	・学習指導要領に例示された「道案内」「電話」「買い物」など特有の表現が使用される場面や言語の動きの例が学年をまたいでくり返し配置され、着実な定着をはかれる。また、この言語の使用場面を扱うコーナーが Our Project、Power-Up、本文などと多岐にわたっていることで、読解やパフォーマンス活動などさまざまな角度から学ぶことができる。	・全体

## 4. 題材


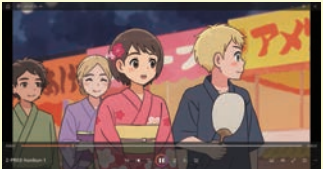
観点	特色	該当ページ例
SDGs (持続可能な開発目標) に対応した題材が配されているか  	3 学年を通して 17 項目のほぼ全ての項目がバランスよく取り上げられている。以下はその一例である。 <b>1 貧困をなくそう</b> : The Story of Chocolate (3 年) <b>4 質の高い教育をみんなに</b> : The Way to School (1 年) <b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b> : Malala's Voice for the Future (3 年) <b>6 安全な水とトイレを世界中に</b> : Nakamura Tetsu (3 年) <b>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</b> : High Tech Nature (2 年) <b>8 働きがいも経済成長も</b> : Work Experience (2 年) <b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b> : Robots Can Improve Quality of Life (3 年) <b>10 人や国の不平等をなくそう</b> : Hot Sport Today (3 年) <b>11 住み続けられるまちづくりを</b> : Sign Languages, Not Just Gestures! (3 年) <b>12 つくる責任 つかう責任</b> : Japanese <i>Bentos</i> Are Interesting! (3 年) <b>14 海の豊かさを守ろう</b> : The Great Pacific Garbage Patch (3 年) <b>15 緑の豊かさを守ろう</b> : Leave Only Footprints (2 年) <b>16 平和と公平をすべての人に</b> : A Hope for Lasting Peace (2 年)	・3 年 PR5 (pp.65-74) など (⇒内容解説資料 p.31)
「自国の文化」を扱った題材はあるか	・Let's Enjoy Japanese Food. (1 年) や Japanese <i>Bentos</i> Are Interesting! (3 年) など、 <b>中学生にとって身近な日本文化</b> がバランスよく取りまぜられている。	・1 年 PR4 (pp.51-59) / 3 年 PR1 (pp.7-16) など
多様性や人権への配慮はなされているか	・全体を通して <b>人権を尊重する態度を培える題材・学習活動</b> が提示されている。分身ロボット OriHime を通した社会的孤独の解消を目標とする吉藤健太郎氏の取り組みや、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんのストーリー(ともに 3 年) は人権および道徳教育の教材として出色である。	・3 年 PR7 (pp.95-104) など
防災教育への配慮はなされているか	・Friendship beyond Time and Borders (2 年) では、トルコや日本を襲った地震について扱うことで、国際協力の重要性を知り、 <b>防災意識が高まる</b> よう工夫されている。	・2 年 R2 (pp.92-95)
環境・自然エネルギーへの配慮はなされているか	・High-Tech Nature (2 年) の単元末 Action では、省エネ対策についてやり取りすることで、 <b>エネルギー問題に対する意識</b> を育てられる。また、The Great Pacific Garbage Patch (3 年) では、世界の海洋プラスチックごみ問題を扱い、 <b>環境保護の意識</b> を高められる。	・2 年 PR6 (pp.75-84) / 3 年 PR6 (pp.79-88)
ストーリーの一貫性はあるか	・通常課の Scenes マンガや本文は、日本人中学生の真央、健、美希に加え、留学生のダニエル、エミリー、アーニャ、フェリベの 7 人を中心としたストーリーで、 <b>3 年間を通した登場人物の成長</b> を、学習者の成長とともに実感できるようになっている。 ・Scenes から本文、単元末 Action まで <b>登場人物が一貫</b> しており、生徒の興味・関心を引き立てるよう配慮されている。	・各単元 (1 年 pp.61-69 など) (⇒内容解説資料 pp.10-13)  ・全体
地域との連携への配慮はなされているか	・全体を通して <b>日本の各地域に関する題材</b> が提示されている。Our Project 5 (2 年) では、日本のおすすめスポットを外国人に向けて紹介する活動を設定し、 <b>郷土への理解と愛着を深められる</b> よう配慮されている。	・2 年 OP5 (pp.87-91) など
スポーツ教育への配慮はなされているか	・Koshien Project in Africa (2 年) では野球を通じた世界平和を目指す友成晋也氏の活動や、Hot Sport Today (3 年) ではバスケットボールの歴史や車いすバスケットについて取り上げられており、 <b>スポーツの意義や可能性</b> を感じられるように配慮されている。	・2 年 PR2 (pp.19-28) / 3 年 PR3 (pp.29-38) など
キャリア教育への配慮はなされているか	・Work Experience (2 年) では登場人物の職業体験について扱っており、本文の学習を通して <b>職業観を育む</b> ことができる。 ・「世界で活躍する日本人」(3 年) では、世界各地で活躍する日本人のエピソードとともに、本人たちからの中学生に向けたメッセージが掲載されており、海外でのキャリア形成についても考えるきっかけにできる。	・2 年 PR5 (pp.65-74)  ・3 年 Coffee Break 3 (p.126)




## 5. 組織・配列・分量

観点	特色	該当ページ例
分量は指導時数に照らして適切か	・本文ページ、および言語材料の分量は週4時間の指導時数に照らして適切であり、 <b>年間140時間での指導・学習が余裕を持ってできる</b> ように編集されている(1年88時間、2年98時間、3年95時間)。	・全体
学習の成果を見取る活動は配置されているか	・単元末 Action では、単元で学んだ内容を生かした発信活動が設定されており、学習の成果が確認できるようになっている。また各学年に配置されている Our Project では、それまでに学んだ表現やできるようになったことを使って <b>パフォーマンス活動</b> を行うため、自己の成長を実感できるよう工夫されている。	・各単元 PR Action (2年 p.105 など) ・各学年 OP (3年 pp.43-47 など) ・内容解説資料 pp.13-17
学習方法や授業展開がわかりやすい構成となっているか	・ <b>通常課の構成は3年間を通して統一</b> されているため、学習の流れを見通しやすくなっている。また、言語材料をまとめて学ぶ授業にも、各項目で分けて学ぶ授業にも対応できる構成となっているため、 <b>柔軟な授業展開が可能</b> である。	・各単元 (1年 pp.29-35 など)
発達段階に応じた学習事項の配列に工夫はなされているか	・言語材料は基礎・基本事項が精選され、易から難へ配列されており、 <b>4技能5領域の活動を通じて身につけられる</b> ように工夫されている。 ・Our Project では、学年が上がるにつれて身近な話題から社会的な話題に移っていくことに加え、活動内容も徐々に難易度が上がっており、 <b>生徒の発達段階に応じた学習</b> ができるよう配慮されている。	・全体 (1年 pp.4-5 など) ・各学年 OP (1年 pp.93-97 など)
目標の提示に工夫はなされているか	・各単元のとびらページには <b>GOALS</b> として単元の目標を掲示しており、学習の見通しを立てることができる。さらに Scenes や Review & Retell、Action ページにはチェック欄が設けられており、 <b>目標の達成状況を振り返る</b> ことができる。 ・Our Project ではとびらページに同様の GOALS を掲示していることに加え、 <b>QRコード読み取り先からパフォーマンス活動のモデル動画を視聴</b> できるため、目標を視覚的に理解できるよう配慮されている。	・各単元とびら (3年 p.55、57、62、63 など) ・各学年 OP とびら (1年 p.135 など)

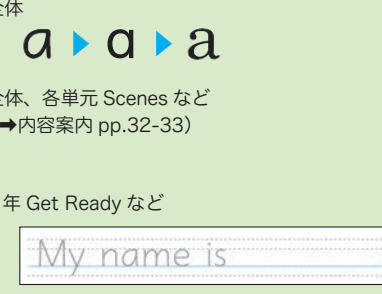
## 6. ICTの活用

観点	特色	該当ページ例
自学自習を促すQRコンテンツが充実しているか	・紙面上部に付した <b>QRコード</b> を通じて、スマートフォンやタブレット端末で以下の内容を読み込むことができ、学校や家庭における自学自習の大きな助けになる。 ① 本文、語句音声 ② Scenes アニメーション動画 ③ Tuning in 題材導入動画 ④ 英語早わかり 文法解説アニメーション動画 ⑤ Our Project 発表モデル動画 ⑥ 単語学習アプリ	・全体 (⇒内容解説資料 pp.20-21)  ▲ Scenes アニメーション
「学習者用デジタル教科書」を活用できる工夫はなされているか	・文字や背景色の白黒反転、本文読み上げ機能、リフロー画面読み上げ機能や総ルビ表示など、生徒の多様なニーズに応じて <b>学習者支援機能</b> をカスタマイズできる。 ・画面上のアイコンをタップするだけで、教科書の <b>QRコード</b> に搭載している音声や動画をいつでも視聴できる。	・内容解説資料 p.38
「指導者用デジタル教科書(教材)」には指導に有効なコンテンツが搭載されているか	・「学習者用デジタル教科書」の機能に加え、教科書本文や Power-Up のアニメーション動画や、短い資料映像など、 <b>指導者用デジタル教科書(教材)オリジナルのコンテンツ</b> が多数搭載されている。 ・目的に応じて、音声の再生方法や英文の表示方法を細かく選択でき、 <b>クラスの実態に応じた指導に柔軟に対応</b> することができる。	・内容解説資料 p.39  ▲本文アニメーション
「学習者用デジタル教科書+教材」にはどのような工夫がなされているか	・「指導者用デジタル教科書(教材)」の機能に加え、 <b>AIによるスピーキング評価機能</b> を搭載し、発音練習に活用できる。	・全体 (⇒内容解説資料 p.39) ・内容解説資料 p.39

## 7. 使用上の便宜

観点	特色	該当ページ例
自律的な学習者を育成する工夫がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step では、マッピングや文章の構成、簡単なディスカッションの進め方など、英語学習における重要な技能を系統的に扱い、<b>主体的に学び、発信する主体的学習者の育成</b>を目指している。</li> <li>Word Web では語彙をジャンル別にまとめ、各単元の言語活動とも関連付けて示しているため、<b>生徒が伝えたい内容を自分で調べて発信できる工夫</b>がなされている。</li> <li>QR コードを読み取って学習できるコンテンツが充実し、<b>音声や映像、単語学習に関するデジタルコンテンツが充実</b>しているため、場所や時間に囚われずに生徒のペースで自学自習ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年 Step</li> <li>各学年 Word Web</li> <li>全体</li> </ul>
さし絵、写真の量・質は適切か	<ul style="list-style-type: none"> <li>さし絵、写真は鮮明で数が多く、生徒の学習意欲を向上させ、学習内容の理解を助け、深めるのに大きく貢献している。</li> <li>各単元に配当されている <b>Tuning in</b> では、大きな写真で<b>課の題材についての興味付け</b>を行うとともに、<b>スキーマ（既存知識）を活性化</b>させることができる。</li> <li>新出表現を導入する Scenes では「2 コママンガを使っての導入」を取り入れ、使用されている表現の目的・場面・状況が適切に表現されており、非常に明確で伝わりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体</li> <li>各単元 Tuning in</li> <li>各単元 Scenes (⇒内容解説資料 p.10)</li> </ul>
巻末資料は有用なものを用意されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年巻末資料に設けられた「英語のつづり字と発音」は、教科書で学んだ単語について、生徒が自分でつづり字と発音の関係に気づき、さらに単語を補充できるように工夫されている。</li> <li>折込付録の「Small Talk 表現集」では、帯学習として取り組める Small Talk のトピックと表現例を一覧で確認でき、能動的・主体的に活動に取り組むことができる。</li> <li>1 年生には「アクションカード」がついており、<b>基本的な語彙・表現の学習の定着</b>に非常に有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 年 p.153 / 2 年 p.137 / 3 年 pp.136-137</li> <li>1～3 年巻末折込</li> <li>1 年アクションカード</li> </ul>
自己評価への対応はなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元のとびらページで、単元内各コーナーの目標を示している。また、各コーナー末では目標の達成度をチェックできる欄が設けられている。</li> <li>Our Project では、発表後に自分のパフォーマンスを振り返る項目を設置し、次回のパフォーマンスにつながる振り返りを促している。</li> <li>巻末資料に掲載した CAN-DO リストでは、自分の達成度を記録することで主体的に学習する態度を身につけられると同時に、各単元でできるようになることが見渡せるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元とびら ▼ 2 年 PR3 とびら (p.31)</li> <li></li> <li>1～3 年 OP</li> <li>1～3 年 CAN-DO リスト</li> </ul>
教員の働き方改革への配慮はされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教科書（教材）」では、マスク表示機能やチャック再生機能のような音声再生機能・英文表示機能を細かく設定でき、手軽に学級の状況に応じた教材を用意することができる。</li> <li>デジタルコンテンツでは、アニメーション動画や題材導入動画を充実させ、教員による<b>教材作成や授業準備の負担を軽減</b>できるように配慮されている。</li> <li>学習者用デジタル教科書 + 教材には、AI によるスピーキング評価機能が搭載されており、生徒が一人でも正確な発音での音読練習に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容案内 pp.38-39</li> </ul>
少人数学級の取り組みへの配慮はされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアや数名のグループ単位で取り組む活動を取り入れ、<b>少人数学級でも活動に取り組みやすい</b>ように配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体</li> </ul>
ALT とのチーム・ティーチングへの対応に配慮はされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元はじめの Scenes では、基本文が対話形式で示されているため、ALT とのロールプレイ形式でモデル対話を示すことができる。</li> <li>各単元末に配置した Action やパフォーマンス活動である Our Project など、コミュニケーション活動が充実しており、<b>チーム・ティーチングをしやすい構成</b>になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元 Scenes、Action、OP</li> </ul>

## 8. 表記と表現

観点	特色	該当ページ例
文章や記号の表現への配慮はされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の標準的で平易な英語を使い、運用度の高い基本的な表現や語彙・連語が精選されて、易から難へとなだらかに配されている。</li> <li>発音記号については、巻末資料「単語と熟語」にまとめて示すことでより見やすいレイアウトになっているとともに学習負担の軽減に有用である。</li> <li>記号や文字の種類については、適切な箇所に解説や注が付されており、学習の利便を図る工夫がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体</li> <li>巻末付録「単語と熟語」</li> <li>全体</li> </ul>
活字や書体の配慮はされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>活字は太めで大きく、行間も十分に取られ、視認性に優れている。</li> <li>欧文は、1年前半まで小学校と同じ手書き書体、1年後半では書き写しやすい活字書体、2・3年生では一般的な書体を採用し、<b>無理なく文字学習に取り組める</b>。</li> <li>基本文(Scenes)の新出表現のポイントに該当する部分や、新出語(New Words)欄の発信語彙は太字にしたり文字色を変えて示すなど、<b>重要度に応じて表示を変える</b>ことで、学習上の便宜が図られている。</li> <li>小学校と同じ、美しい文字が書きやすい4線幅を採用し、「<b>書くことへのつまずきを軽減</b>」する工夫がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体</li> <li>全体</li> <li>全体、各単元 Scenes など (→内容案内 pp.32-33)</li> <li>1年 Get Ready など</li> </ul> 
ユニバーサルデザインへの配慮はされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語には、見やすさと読みやすさに配慮して開発された <b>UD フォント</b> を採用し、学習者への細やかな配慮がみられる。</li> <li>すべての生徒の学ぶ機会を保障するために、特別支援教育の専門家の校閲のもと、<b>文字の読みやすさや情報の読み取りやすさ</b>に配慮している。</li> <li>通常課や Our Project、Step や Power-Up などのデザインや配色、配置が全学年で統一されているため、<b>課やコーナーを検索しやすく</b>、学習上の便宜が図られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体 (→内容解説資料 p.29)</li> <li>全体</li> <li>全体</li> </ul>

## 9. 造本、体裁

観点	特色	該当ページ例
印刷・紙面・製本は適切か	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>環境に配慮した用紙やインキ</b>が使用されており、印刷は非常に鮮明かつやさしい色使いで見やすい。</li> <li>判型は <b>A4 判</b> を採用し、生徒の深い理解を補助するイラストや写真などを豊富に掲載しても、つめこみ感のないゆとりある紙面となっている。</li> <li>製本はあじろ綴じによるもので<b>堅牢な作り</b>になっており、<b>長期間の使用に耐えられるもの</b>となっている。</li> <li>表紙には PP ラミネート加工を施しており、<b>摩擦による傷や汚れがつきにくく、破れにも強い</b>作りになっている。</li> <li>本文用紙には軽い素材を採用し、<b>重さに配慮</b>している。</li> <li>1年生の巻末にある「アクションカード」は切り取り用のミシン目が施され、扱いやすいように配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体</li> <li>全体</li> <li>全体</li> <li>表紙</li> <li>全体</li> <li>1年アクションカード</li> </ul>



# 開隆堂出版株式会社

<https://www.kairyudo.co.jp/>

本社	〒113-8608 東京都文京区向丘1丁目13番1号	☎ 03-5684-6111
北海道支社	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4番地21 山京ビル7階	☎ 011-231-0403
東北支社	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3丁目10番7号 サンライン第66ビル5階	☎ 022-742-1213
名古屋支社	〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1丁目15番18号 オフィスサンナゴヤ9階	☎ 052-908-5190
大阪支社	〒550-0013 大阪府大阪市西区新町2丁目10番16号	☎ 06-6531-5782
九州支社	〒810-0075 福岡県福岡市中央区港2丁目1番5号 FYCビル3階	☎ 092-733-0174

公式LINEにご登録いただくと、  
各種情報を受け取ることができます。友だち追加はこちらから▶



QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

Sunshineでは、以下のような工夫や配慮をしています。

- カラーユニバーサルの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮しています。
- 特別支援教育の視点から、書かれている内容が読み取りやすくなるように、文章や紙面の配置などを工夫しています。
- 環境に配慮した用紙やインキを使用しています。
- 日本語には見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを採用しています。